

江迎まちなみ 景観ガイドライン

みんなで景観を考える・つくる・つないでいく

企画・制作：江迎活性化協議会



目次

- 1. はじめに・・・02
- 2. 江迎の景観の特長と歴史・・・03
- 3. 大切にしたい江迎の景観・・・05
- 4. 景観まちづくりのコンセプト・・・18
- 5. 実践のアイデア・・・19
- 6. 景観まちづくりのサポート・・・40

1. はじめに

江迎に住んでいる皆さん、
そして、これから住みたいと考えている方へ。

宿場町として栄え、江迎本陣をはじめ、幾多の時代を越えた昔ながらの街並みやお祭りなどの文化が今も残る江迎町。明治以降も交通の要衝として、様々な物資の集散地としても賑わい、商業や炭鉱業の発展により人の往来や物資の交流が盛んな地域となりました。当時の賑わう風景が記憶に残っている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。しかし、近年では、人口減少や商工業の衰退と、次第に地域の活力が低下してきました。歴史に裏打ちされた江迎らしさもだんだんと失われつつあります。

ただ江迎には、江迎本陣や千灯籠まつりをはじめとする歴史的な資源が今も残り、それらを魅力に感じる方々が今も訪れています。私たち江迎活性化協議会は、江迎が誇るべき資源である「景観」を活かしていくことで、観光や移住で来られる方々をお迎えできるよう、様々な活動を行っています。

景観は、川や海、山や緑などの自然的な要素と、住宅や商店などの建築物、橋や道路などの構造物からつくられています。また、そこで長く営まれてきた人々の生活や活動、そして、私たちがそこから感じ取る印象やまちの雰囲気も含めて景観としてあらわれます。そのため景観づくりは、単に美しいものを守るだけでなく、地域の人々が生き活きと心地よく生活し、住み続けたいまちをつくることでもあります。

江迎の地名は「江(港)」で「迎える」という由来があると言われています。今は「宿駅」の制度はありませんが、長崎県北地域の中継地・要としての立ち位置は変わることはありません。まちづくりのコンセプトは「現代版宿場町へのアップデート」。宿場町としての立ち位置を再認識し、「現代に求められる『宿場町』とは何か」を改めて考え、景観づくり・まちづくりに活かしていきたいと考えています。

この景観ガイドラインは、江迎らしい景観に改めて気づき、これから私たち自身でより良いまちなみをつくるためにできることはなにかを考え、心地よいまちなみをつくるためのアイデア集です。

自分たちでもできる身近なことから始めてみませんか。

これらの小さな活動が共有され、地域に広がり、蓄積されていくことで、さらに住み良く、訪れた方にとっても魅力的なまちなみになることでしょう。

令和3年3月
江迎活性化協議会

2. 江迎の景観の特長と歴史

江迎町は、長崎県の北部、旧北松浦郡の中央部に位置し、北・東・南の三方を丘陵に囲まれ、西は江迎川を挟んで鹿町町と接し、その一部は開けて江迎湾へと続く形をしています。

現在の江迎町の中心部は、もともと江迎湾の最奥部で山地が海に迫り、平地に恵まれていない一帯でしたが、わずかな三角州から集落形成が始まりました。江戸時代以降は、平戸藩の参勤交代や長崎勤番の平戸往還という交通動脈が通過し、「宿駅」「本陣」などが立ち、それに江迎川、嘉例川、鹿町川、江迎湾方面からの交通の動脈が集中する位置にあり、江迎中心部は発展していきました。

平戸・松浦藩において、街道、宿駅の制が定められたのは1650年ごろ。江迎の中心になっている町筋を「江迎駅」と呼ばれていました。藩政時代、「駅」には常時馬が用意されており、現在の停車場と郵便局を兼ね備えたような交通機関でした。現在の町役場から東側にかけての路地（現在の市道中町線）一帯には、駅、馬小屋、宿舎などが建ち並び、周囲の村から人の往来も生まれ、自ずと「まち」が形成されていきました。平戸街道は平戸から長坂へ、そして長坂から根引を通して御厨の方へ続いており、街

道には松並木が植えられたと言われています。

江迎町中心部が現在のような地形になったのは1809年。それまで中心部に平地はほとんどありませんでしたが、埋立・干拓事業が行われ、鹿町側に「深江新田」が、現在の江迎の商店街の位置に「前潟新田」が完成しました。当時は鹿町側に渡る橋はなく、浄念寺前から出る渡し舟で渡っていました。

大正時代までは現在の市道中町線が主な商店街で、その前面は前潟新田と言われる田んぼでした。昭和時代になると、石炭産業の隆盛により人口が増加し、人の往来、物資の需要が増えていきます。新しい商店も増え、それにつれて金融機関の進出や諸官庁の設置、旅館や飲食店なども多くなり、中町線のひとつ西側の通りには新しい商店街が形成されていきました。

終戦後は、復興のためのまちづくり事業も始まります。昭和25年より前潟新田を埋め立て、新市街地を作る都市計画事業が起工。年々事業は進められ、昭和42年、街路も舗装され、国道204号線となり新商店街が完成しました。この新商店街は建物の建築様式も他と異なり、通りは新

しい景観を有していました。結果として、江戸時代から昭和にかけて順に3通りの商店街が広がったことにより、1つ1つが時代をあらわす街並みとなりました。

しかし、昭和37年の潜龍炭鉱の閉山、昭和41年の江迎炭鉱の閉山により人口が減少し、商工業が衰退。商店街を形成していた店舗も少なくなり、商店から住宅への建て替えも増えてきました。宿場町の面影を残す昔ながらの町屋型建築も少なくなり、また、近年では空き地も目立つようになり、次第に江迎の景観も変化してきました。

これまで、江迎の街並みが変わってきた要因には、経済発展や人口増加など、都市機能が拡充されてきたことに伴います。逆に現在、人口が減少し、求められる機能が変化していく中で、江迎の街並みをより良くしていくために私たちには何ができるでしょうか？



昭和後期の江迎市街地。勾配屋根が連なる街並みがある。



昔の中町線の様子。（撮影時期不明）
昭和後期の江迎市街地。間口の広い町屋型建築が並ぶ。



明治 40 年頃の江迎中心部。様々な商店が連なり、賑わいの様子が伺える。（出典：江迎町郷土史（平成 12 年発行））



現在も残る潜龍酒造。（撮影時期不明）

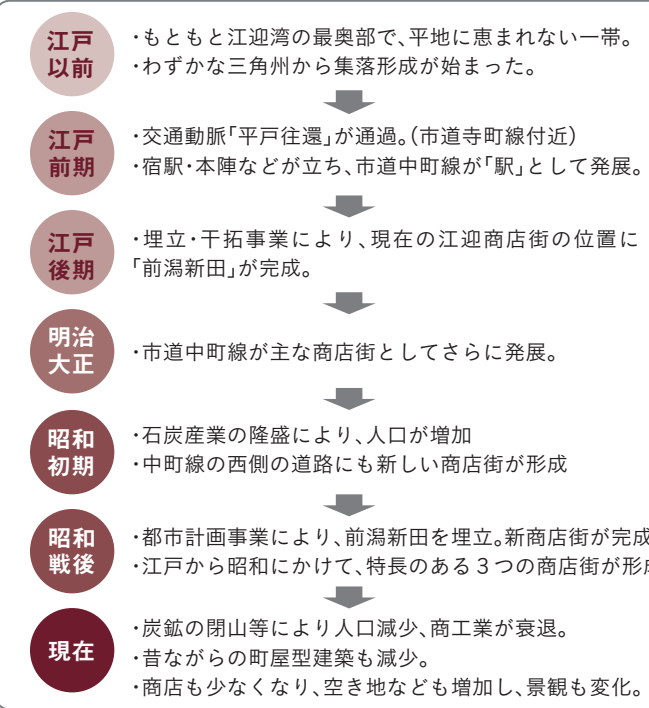


昔の市街地の様子。（撮影時期不明）



埋立後の市街地。（昭和 48 年航空写真）

■江迎市街地の変遷



3. 大切にしたい江迎の景観

景観は、元々そこにある自然・地形と、人々によって作り出されたものが複雑に混じり合っで、各地にその個性や特徴があります。普段見慣れた江迎の景観も、少し意識して見てみましょう。これからも大切にしていきたい江迎の景観が見えてきます。



道・街路・通り

（１）江迎で最も古い商店街「市道中町線」

藩政時代に「駅」が置かれたことから発展した「市道中町線」は、江迎町の中でも最も古い商店街でした。今では商店を営むのはごくわずかで、商店街にはなっていませんが、中町線には新たな観光拠点「入り江で迎えるまちの

駅 おおたや」もオープン。通りに対して間口が広く、通りに対して面が揃っている町屋型建築が並び、歴史的な風情を感じることができる通りです。



（２）平戸街道の一部であり、江迎のまちを一望できる「市道寺町線」

江迎の中心市街地から一段上がったところにある「市道寺町線」は、中心市街地の埋立が行われるまでは平戸から佐世保へ抜けるメインの通りで平戸街道の一部でした。この通りは寿福寺の石垣や、招魂場や江迎中央公園

から現れる樹々に囲まれ、風通しの良い心地よい通りです。一段上がったところにあるため、江迎のまちを一望でき、地域の皆さんの散策路としても身近な通りです。



道・街路・通り

（３）暮らしの営みを感じさせる「暖簾」

暖簾は元々日よけや目隠しのために吊り下げられた布ですが、次第に商店の営業の目印としても使われるようになった、日本独自の文化です。暖簾が掲げられた景観は、日本文化を感じられるとともに、風に揺られる姿か



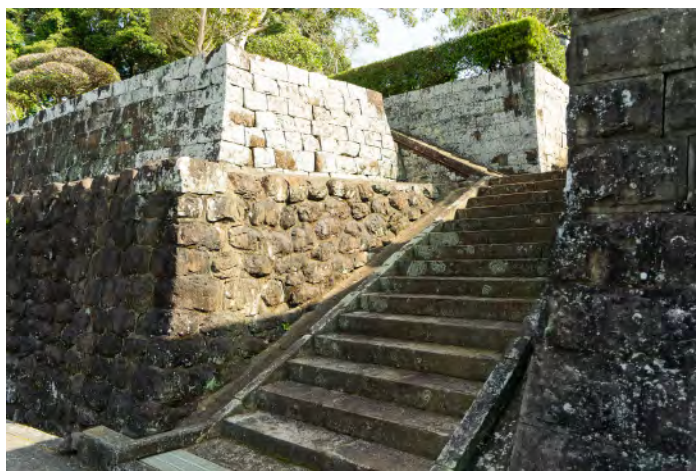
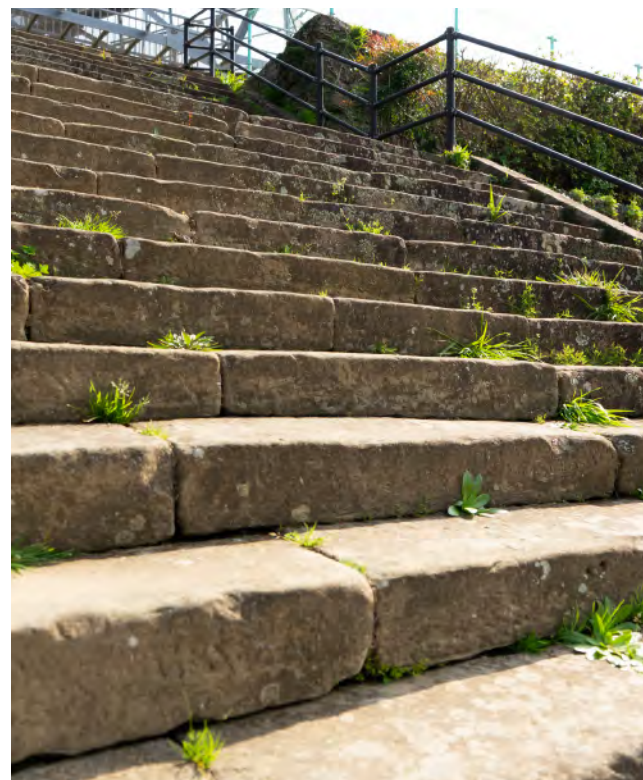
らは暮らしの営みを感じさせる賑わいの景観の演出にも繋がります。江迎活性化協議会では、商店や住宅の軒先に暖簾を掲げ、賑わいや統一的な景観を演出する取り組みを行なっています。



（４）景観を生み出す素材としての「石」

江迎を歩くと、至るところに「石」の存在を感じることができます。元々山地が海に落ち込んだ地形をしており、今でもその面影として切り立った自然の岩肌が見られます。その他、丁寧に積まれた石垣や塀の一部に石が使われていたり、無造作に敷地境界に石が置いてあったり

します。江迎には地場産業としての石材があるわけではありませんが、石は古来より境界や護岸の材料として使われており、江迎の周囲の自然と歴史的な景観に調和する素材のひとつです。



（５）通りの景観を演出する「塀・柵」

塀は、通りの景観の大きな要素であるとともに、建築物の防犯性やプライバシー確保などの機能があります。江迎中心部には、基壇は石積みで漆喰壁にし、瓦を葺いた塀が残っていますが、通りに面してこのような塀が設置されていることで、通りの連続性が確保され、統一感のある街並みとなります。また、道路と垂直方向に和風の塀があることで、視野に入る量が多くなり、より、和の雰囲気演出することができます。



（６）伝統的な建築様式「町屋」

町屋は民家の一種、店舗併設の住宅で、通りに面して間口が広く、軒先が通りに対して出て、均等に立ち並んでいるのが特徴です。江迎の市道中町線は明治・大正時代から商店街を形成してきた歴史があり、今も町屋型建築が数軒残っています。通りの昔の姿を思い起こさせる建物です。



水辺

（７）穏やかに海に流れる「江迎川」

江迎町の中心部を流れる江迎川は、川幅も広く、先まで見渡すことができ、景観を眺めながら安心して歩くことができます。自然的な景観はもちろん、江迎川の護岸の一部には石積みが残っていたり、川に面して建物が建っ

ていたり、昔の渡し船の面影も見られ、江迎のまちが川と共にあったことが分かります。



（８）水かけ地蔵まつりの舞台「嘉例川」

江迎川に注ぎ込む嘉例川は、単に水の流れる空間だけでなく、水かけ地蔵まつりの舞台でもあり、夏は川遊びをする子供たちもいて、地域の皆さんにとっても身近な空間です。護岸は石積みで近自然型の川であり、複雑な水

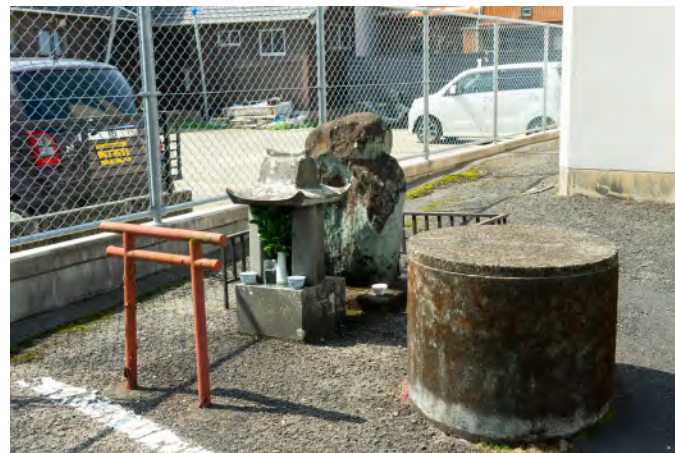
の流れや周囲の緑・山々など、自然的な景観が楽しめます。周囲の自然や歴史と調和した護岸・橋のデザインなど、川に親しめるしつらえが、ますます必要となるでしょう。



水辺

（９）自然の水との暮らしを知ることができる「井戸」

市道中町線を歩くと、あちこちに「井戸」を見つけることができます。毎年秋にはお祈りする「お伊勢講」が行われ、地域の皆さんにも馴染みの深いものです。近年、上水道の整備により暮らしは快適なものになりましたが、川



や井戸といった自然の水が日々の暮らしの中からは見えにくくなりました。井戸は災害時の大切な備えでもあり、井戸のある景観からは、これまでの水と付き合ってきた歴史を感じることができます。

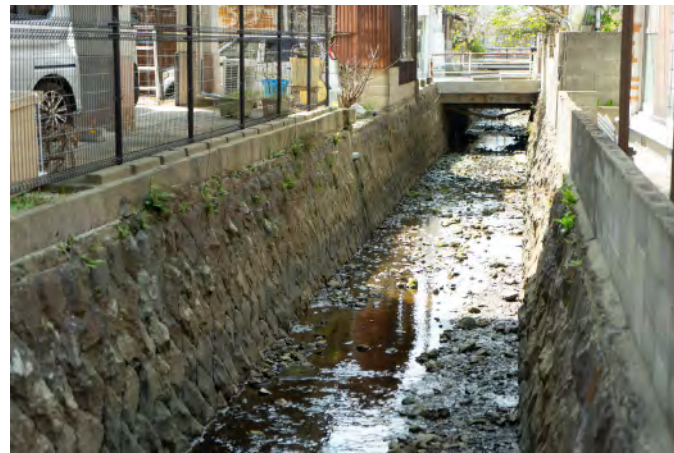


（10）岩と水の共演、江迎ならではの地形が生み出す「小川」

江迎の中心部には川の他にも、山から流れる水が岩を侵食し小川となっている場所があります。山間から流れる小川は流れも早く、まるで溪流のよう。河口近くでは珍



しく、江迎中心部が山あいの岩に囲まれた地形にある、江迎ならではの景観のひとつです。



まちなみ

（11）江迎の街並みを見渡せる「眺望」

山と海・川に囲まれた江迎中心部では、高台にある江迎中央公園や寿福寺、市道寺町線などから、江迎の中心部の街並みを見下ろすことができます。江迎の街並みは低層住宅・商店が多く立ち並んでいるため、川の流れや隣



町・鹿町の山並みなどを含め、自然と人の暮らしが融合する景観を作り出しています。高台から西の方面、江迎の街並みとともに夕日が沈んでいく景観は、地域の皆さんの心に残っている大切な景観です。



（12）江迎住民の好きな場所「江迎中央公園」

地域の皆さんへのアンケートで「好きな場所、思い出のある場所」として最も多く挙げられたのは「江迎中央公園」。千灯籠まつりの時の思い出や、旧江迎小学校があった時の記憶、公園で遊んだ思い出がありました。江迎中央公園は江迎中心部にある貴重なオープンスペースであり、桜やムクノキなどの緑に囲まれた貴重な場所です。また高台にあり、江迎中心部の街並みと、沈んでいく夕陽を眺めることができます。



まちなみ

(13) 地域の歴史と景観をかたちづくる「緑・シンボルツリー」

街路樹やシンボルツリーなど、まちなかに木々があることは、空気が浄化され、風通しも良くなり、見た目も心地よいものです。江迎中央公園のムクノキや市道寺町線沿いにはシンボルツリーが残っておりますが、古くは平戸

街道沿いには松並木があったと言われていました。また、最近までは江迎川沿いにも柳並木がありましたが、現在では少なくなっています。樹木は、江迎の地域の歴史と景観をかたちづくる大切な要素です。



(14) 賑わいのはじまり「商店・商店街」

地域の皆さんへのアンケートで様々な意見が寄せられるなか、不満に思っていることとして「まちなかの寂しさ」がありました。空き店舗や空き地の増加は景観への影響も大きくなります。江迎は旧来、「宿駅」が置かれたことにより商工業が発展し、さらに大正・昭和と商店街

が形成された、商いを中心とする成り立ちがあります。江迎の商店街は、高層や大規模な店舗はなく、こじんまりとした良さがあります。お店を利用し、江迎らしい賑わいの景観を守っていくことも大事な景観づくりのひとつです。



(15) 当時の姿を知ることができる「歴史的建造物」

平戸藩主が参勤交代の時に宿泊した本陣屋敷。江迎では、長崎県下でも唯一当時のままの姿で見ることができ、御成門や庭園、家具、調度品にいたるまで、お殿様の愛用品の多くが当時のままに残されています。その他、

本陣周辺には「山下家もと蔵」や「旧マルヤマ醤油」「旧平戸商業銀行江迎支店」など、大正から昭和にかけて建築された店舗・倉庫などが残っており、江迎の商いの歴史を伺える貴重な景観資源です。



まつり・コミュニティ

(16) まちの活気も大切な景観、「コミュニティの場（おおたや）」

まちなかの賑わいは、買い物だけではありません。地域の皆さんが街に出て、日常的に交流できる場所があることが理想です。商店街のお店だけでなく、公園、お寺、散策路、公民館など、まちのあちこちで人々が楽しげに活動している景観は、まちに活気をもたらしてくれます。



「入り江で迎えるまちの駅 おおたや」もそのひとつ。小さなカフェや店舗がコミュニティスペースになっている事例もあります。小さなコミュニティ活動の積み重ねが、江迎の景観につながっていきます。



(17) 江迎住民が最も大切にしたい、「まつり」

景観は日常的に目に見えるものだけではありません。アンケートでは「大切だと思ふ風景」として千灯籠などのお祭り・行事の風景に最も高い評価がありました。従来「ハレとケ」と言われるように、ハレの非日常性とケの日常性の2つが相互にバランスして私たちの生活が成り立っていると言われています。お祭りは、地域の皆さんの中に根付いている大切な原風景であり、生活にメリハリと活気を与えてくれる重要な要素です。



4. 景観づくりのコンセプト

江迎町の中心部はまち全体が一度に「宿場町」として出来上がったものではなく、それぞれの時代の賑わいに応じて拡大・変化していったものです。それぞれの時代において、その時代ならではの暮らし・賑わいがあり、その結果として現在の「景観」があらわれていきました。

景観づくりは、どこかの時代の景観を復元するものではなく、これまでの歴史の積み重ねを評価した上で、来訪者にまちを楽しんでもらうことはもちろん、地域の皆さんが生き生きと心地よく生活し、住み続けたいと思える工夫を積み上げていくことが重要です。

ではありません。「宿場町」をもう少し読み解くと、北松地区の拠点として様々な人が行き交い、集う場所でした。今も昔も、変わらず「江迎らしさ」として残っているのは、人の姿であると思います。

人の気配がする通りへ。人がくつろげる街へ。歩いて楽しい街へ。今はあまり人の姿を感じる事が少なくなりましたが、手入れされた植物、置かれたベンチ、掲げられた暖簾、そのようなところからも人の気配を感じることができます。

宿場町の歴史ある風景は「江迎らしさ」ですが、それだけ

今ある江迎の資源を生かしつつ、人の暮らしを感じさせるまちなみを作っていきませんか。



景観づくりのコンセプト

江迎の暮らしをつなぐ景観づくり

景観づくりの対象エリア

江迎中心部（概ね西江迎・東江迎・西岩崎町内会のエリア）



景観まちづくりの5つの方向性

① 江迎の歴史資源を生かした、本物志向で落ち着いた雰囲気の演出

・建物外観、塀や柵、舗装、案内・誘導サイン、などのデザイン

② 人の暮らし・賑わいがまち全体から感じられる仕掛けづくり

・暖簾、植栽、立て看板、ベンチ、など、わかりやすく誘いやすい仕掛け

③ 低未利用地のしつらえ

・空き地、駐車場、などの整理や活用

④ 江迎の景観まちづくりを学び楽しむ場づくり

・景観教育、屋外空間の活用、清掃・植栽活動、暖簾づくり、などのイベント・活動

⑤ できるところから、小さなところから始める

・長い目でみた段階的な景観づくり、小さな取り組みの積み重ね

5. 実践のアイデア

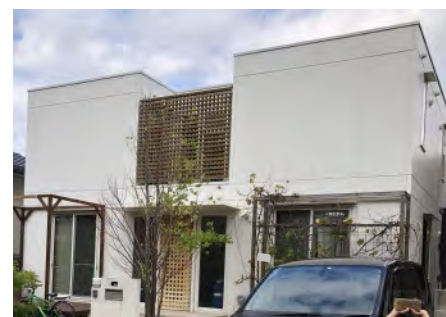
1. 一人ひとりできる、まち並みづくり

1－① 統一感のある勾配屋根の連なり

一軒一軒の勾配屋根が連なることで、統一感のあるまちなみが生まれます。屋根の形状や色彩に気を配りましょう。宿場町として栄えた時代を引き継ぐまちなみになります。



落ち着いた色合いの勾配屋根が多いことが、江迎の個性あるまちなみをつくっています。



フラットルーフの屋根が増えると、まちなみの統一感は失われます。



派手な色や鮮やかな色彩は、江迎にはほとんど見られません。



スレート屋根材は初期コストは安いものの、耐久性やメンテナンス頻度で瓦屋根やガルバリウム屋根に劣ります。

1. 一人ひとりできる、まち並みづくり

1－② 落ち着いた雰囲気の外壁

彩度の低い外壁色は、建物の景観に落ち着いた雰囲気を感じさせるため、一体感のある印象のまちなみとなります。



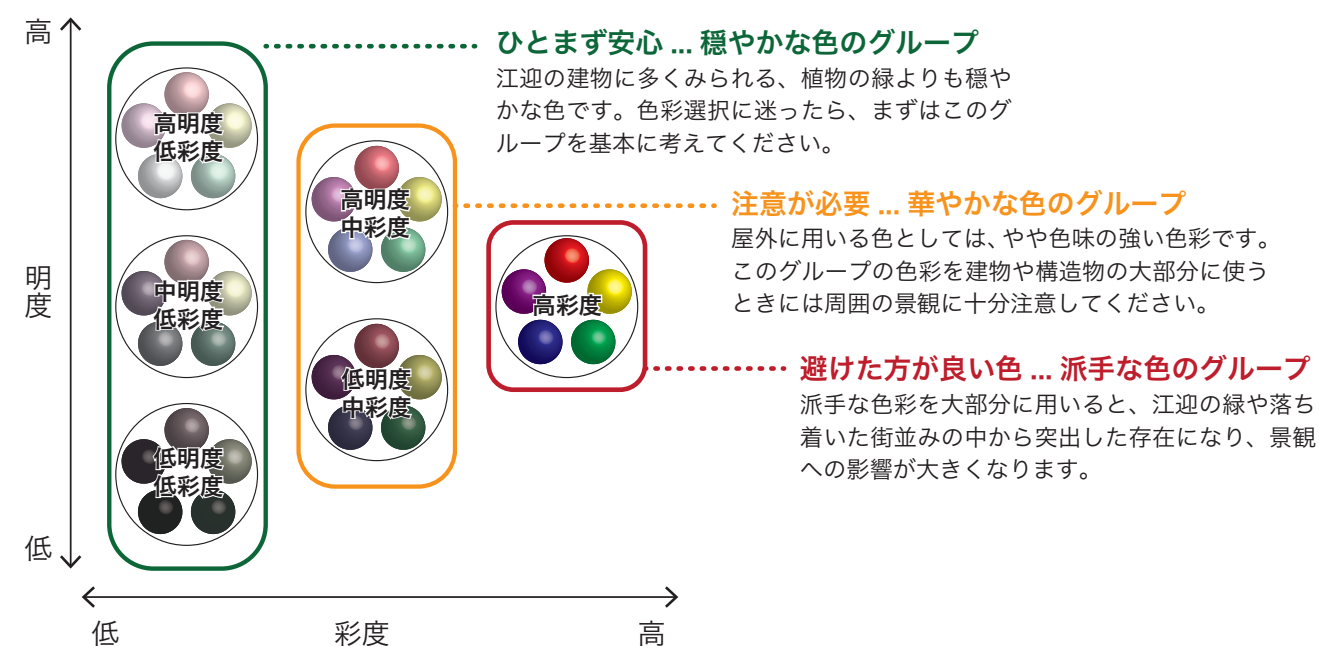
彩度が低く、落ち着いた色合いのサイディング材。



塗りの手法を使った外壁。



自然素材を使った外壁。



参考となる色彩の考え方。

1. 一人ひとりできる、まち並みづくり

1-③ 通りの景観をつくる町屋型建築

江迎には、町屋型建築とも呼べる、通りに面して間口が狭く、奥行きが深い造りの建築が多く存在します。また町屋型建築の特徴として、通りに面して、1階よりも2階の方が若干外に張り出す、開け閉めできる大きな開口部などが挙げられます。



障子戸。旅籠の客が開けることができた。

1階よりも2階が張り出す構造。

小屋根。1階の庇。

格子。外からの視線を柔らかく仕切りながら、室内に自然光を採りこみ、外に生活の灯りや様子をにじみ出させる。

中町線で見られる町屋型建築。

大きな開口部で開かれた造り

町屋型建築の特徴である、通りに面した開口部の造りは、伝統的な方法でも現代的方法でもデザインすることができます。



障子戸により、大きな開口部で外の灯りを採りこみながら、室内のプライバシーを確保しています。



空き家をリノベーションした例。大きな開口から室内の灯りがにじみ出ます。

格子戸

格子戸は、江迎の町屋型建築によく見られる一要素です。プライバシーを確保したい窓などの開口部に付けることで、明かりを採り入れつつ、プライバシーに配慮できます。



江迎の町屋型建築で見られる格子戸。繊細で丁寧に作られたものが多いです。



繊細な格子の間隔にデザインできれば、開口部・窓だけでなく、外壁などの部位でも格子を取り入れられる。

小屋根

近年は、1階の庇に小屋根をつけない造りが増えています。小屋根を設けることにより、1階と2階のひとつながりの壁面がもたらす圧迫感を避け、小屋根の下に入っていきたくなる、親しみやすい印象のまちなみ形成に寄与できます。



小屋根を設けて、1階から2階までのひとつながりの壁面を分割して見せている例。壁の汚れ防止にもなります。



近年見られる、1階から2階までがひとつながりの壁となっている例。

1. 一人ひとりできる、まち並みづくり

1-④ 通りに開かれたお店

商業建築は、宿場町であった歴史を現代に引き継ぐ造りや外に開かれた造りとする
ことで、通りににぎわいを与え、まちなみづくりに寄与します。



柔らかくプライベート
を確保するすだれ。

通りににぎわいを与える
のれん。

通りに開かれた、木サッ
シ窓(リノベーション)。

大きすぎず認識できる
看板。

木ルーバーによる
設備の目隠し。

住宅をリノベーションした店舗。まちなみを壊さず、通りににぎわいを与える小
さな工夫が施されています。



江迎の「おおたや」は、精米所の建物をリノベーションした店舗。のれん型の看板、ベンチが目
留まります。(2021年に改装。リニューアルオープン予定)

大きな開口部

商業建築において、窓やドアなどの開口部から見せる店内の雰囲気は、看板より
も大切な、通りを歩く人やまちなみとのコミュニケーションの手段です。大きな
開口部、木サッシの採用などがおすすめです。



道に大きく開いた造りのリノベーション店舗。室内に
自然光を採りこみます。



大きな開口は夜も通りを明るくします。

にぎわいを演出する看板・のれん

お店の看板やのれんは、通りのにぎわいを演出します。小さい要素ですが、大きな
効果をもたらします。看板やのれんの存在感を発揮させつつ、まちなみとの調和
を図ることで、より良い印象を与られます。



歩行者向けの看板は、大きすぎないものでも充分目
留まります。写真は、スタンド型看板の例。



古き良き日本の伝統を感じさせるのれん。通りがパッと
明るくなります。

1. 一人ひとりできる、まち並みづくり

1-⑤ あたたかみのある塀・柵・目隠し

建物と通りの境界部分となる塀と柵は、まちなみ景観を形づくる大切な要素です。新たに建設したり補修を行う際には、江迎のまちに見られる昔ながらの造りや自然素材を用いた造りと調和させていくことで、まちの良さを引き継いでいくことができます。



中町線で見られる、漆喰と石垣の組み合わせの塀。



中町線で見られる、左官仕上げの塀。



完全に目隠しが必要な場合も、木塀で設えられます。



あえて塀を作らず、開かれた造りとする住宅。



通りに面して置かれた空調などの設備は案外よく目立つため、木ルーバーと呼ばれる格子で目隠した好例。



既製品でも設備の目隠しはできます。建物や周辺と調和した色に配慮するとより良くなります。

1. 一人ひとりできる、まち並みづくり

1-⑥ 多様な効果を発揮する植栽

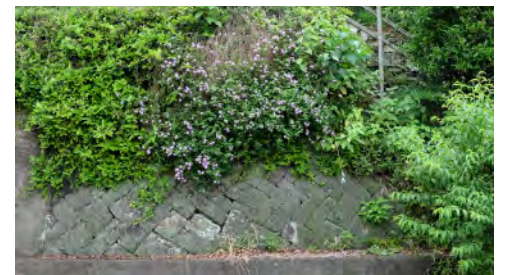
植栽には、まちなみの統一感を緑で高める、安全・安心、色どりや変化、まちなみのイメージ向上など様々な効果があると言われています。



中町線で見られる、住宅前の緑(植栽)がつながり、通りの景観をつくる様子。まちなみの印象が良くなります。



中町線で見られる生垣植栽。ブロック塀よりも地震に強く安全で、また豊かな植栽がある地域は犯罪が少ないという効果も言われています。



斜面緑地の花は、安らぎや季節の彩り・変化の効果をもたらします。

1. 一人ひとりできる、まち並みづくり

1-⑦ まちを優しくするベンチ

ベンチは、一説ではまちなみの優しさの指標になるとも言われます。ベンチがあることで、そこで一休みする時間から世間話が始まり、人と人とのつながりや交流が生まれるきっかけとなります。



格子を思わせる繊細な造りの木製ベンチ。人の手が加わった、ぬくもりを感じさせます。



店舗の前に置かれた木製ベンチ。まちが訪問を歓迎しているような雰囲気が生まれます。

1. 一人ひとりできる、まち並みづくり

1-⑧ 潤いを感じる駐車場

アスファルトや碎石のみで設えられた駐車場は無機質な景観になりがちです。駐車場であっても舗装や緑を採り込む工夫により、潤いのある設えにすることができます。



芝と砂利の組み合わせで自然的な設えをつくれます。



化粧砂利は比較的安価に手に入ります。



草目地の駐車場の例。



砂利の駐車場と草目地のアプローチを組み合わせ例。



大きな駐車場では、駐車区画の中に緑を挟む方法が効果的です。



駐車場周りの緑や石垣を残すことで潤いのある印象になります。

1. 一人ひとりできる、まち並みづくり

1-⑨ いきいきとした空き地

空き地は寂しい景観になりがちなので、できるだけいきいきとした暮らしの景観に配慮することが大切です。①新たな利活用、②適切な維持管理、③保安上問題のあるものの撤去・解体、の3つの対策が考えられます。



砂利敷きとし、仮設の植栽をしておくだけで、公園のような設えになります。(①利活用)



碎石敷きはアスファルトよりも環境にやさしくなります。(②維持管理)



暖色系の化粧砂利にすると、よりあたたかい景観になります。(②維持管理)



仮設の花畑に活用(①利活用)



ゴミ等の撤去(③撤去・解体)
出典:国土交通省「行政が土地の利用・管理に関わる制度・事例」



移動販売車などが寄り付く場所として活用することも考えられます。(①利活用)
車が頻繁に出入りする部分は、砂利敷きを控えるか砂利地盤安定材(ハニカム状の不織布)を用いて、砂利の流出を防ぐ工夫がおすすめです。

2. 試みながらつくる、まちの場所づくり

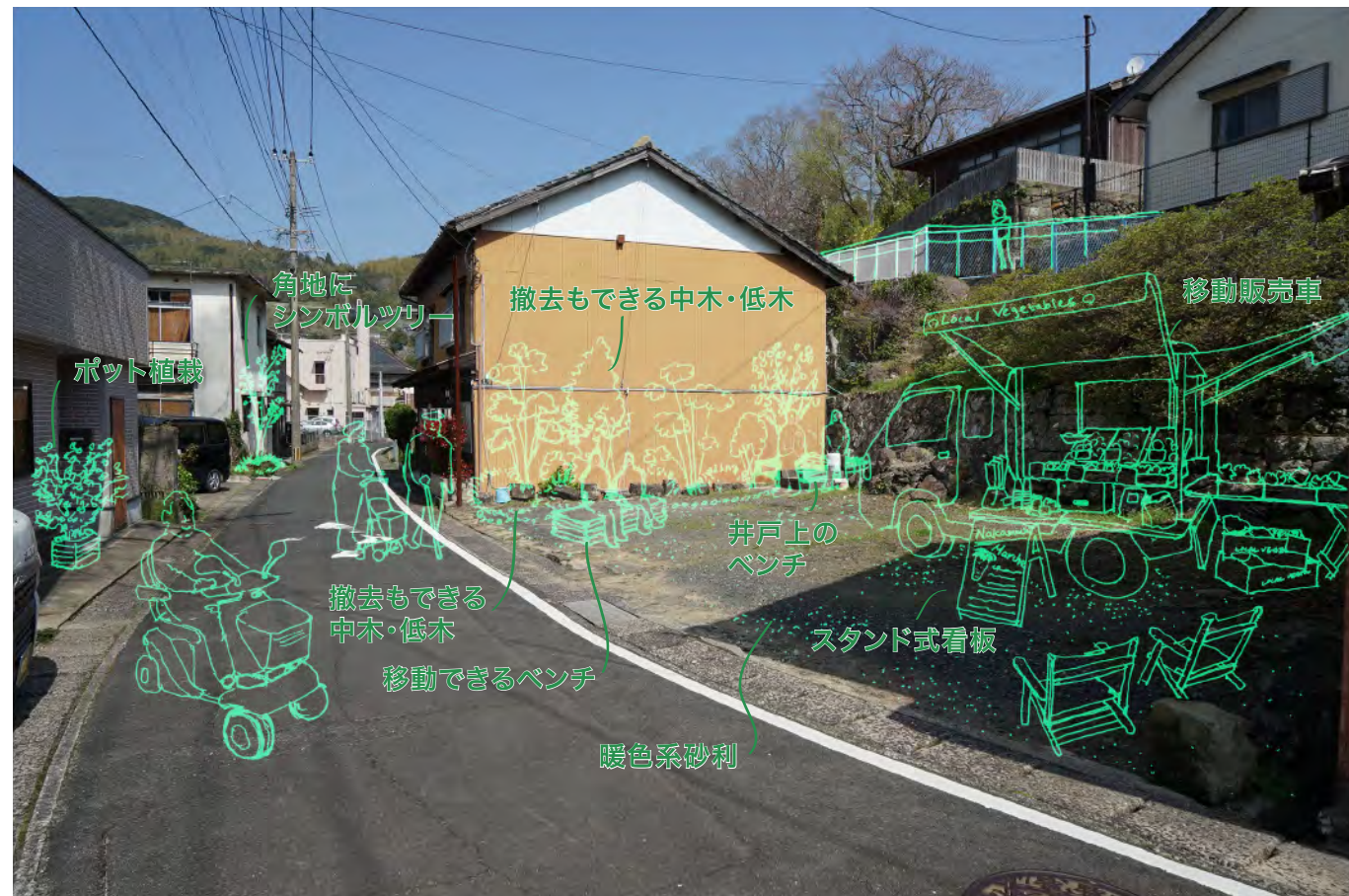
2-① 安心して風情を味わえる市道中町線

市道中町線は、宿場町の名残を感じさせる町屋型建築や漆喰塀が残る通りです。日常時は周辺住民の生活や、来訪者のおおたやからの散策に使われます。水かけ地蔵祭りなどの催事には、祭りの舞台として使われる、まちの象徴的な場所です。

景観デザインの基本方針

宿場町の歴史をなぞりながら、歩行者が主役として安全に歩ける“通り”

- 実践1** 沿道の空き地や空き家、井戸や水路の積極的な利活用。
- 実践2** 緑を植えたり花を飾ったりすることで演出する、通りの賑わい。
- 実践3** 住民、来訪者がまちの中の楽しみを発見する案内板の設置。
- 実践4** 車の速度抑制を図る景観舗装（見かけ上の車路幅員を舗装の模様で狭く見せる、良いエイジングの素材、水たまりがでにくい透水性舗装など）による道路空間の設え。
- 実践5** 安心と風情を感じさせる照明（建物前のわずかなスペースにも設置できるコンパクトで、温かみのある色温度のフットライトなど）の設え。



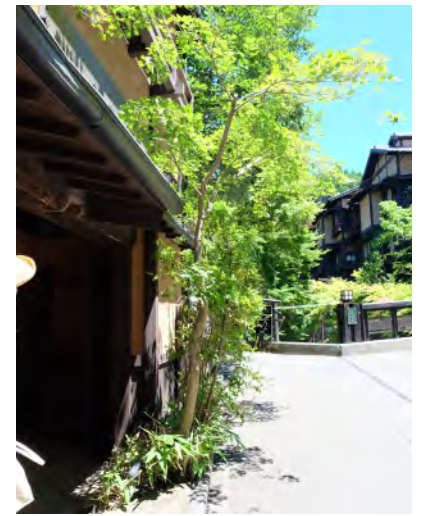
沿道の空き地に、仮設的な緑の設置やベンチの配置、移動販売車を使ったマーケットのイベント使いなどすることにより、通りの雰囲気を変えられ可能性があります。



古くから残る石垣とそこに育った緑。このような石垣はこれからも大切に残していきたい景観資源です。



おおたやの沿道に飾られた季節の花々が、風情のある明るい雰囲気を作っています。奥にはベンチも。



わずかな土地を活用して植えられた緑が、まちの印象を変えます。



中町線沿いに点在する空き地。現状土の土地には、スミレなどの野の花を植えて、景観を向上させられる可能性も考えられます。



空き地や沿道に残る井戸も見せ方一つで面白くなります。



舗装は、江迎の景観にも馴染む、車の通行や歩きやすさを兼ねた自然石舗装や半たわみ性舗装などが考えられます。また、スリット側溝を採用することで、人が歩きやすい路面をできるだけ広く確保でき、車の通行路を見かけ上狭める工夫により、速度抑制を図ることができます。（写真左：日田市・2種類の自然石舗装、写真右：湯布院・半たわみ性舗装（奥）、手前の濃い部分はアスファルト。）

2ー② まちの眺めを楽しむ市道寺町線

市道寺町線は、自然豊かで周辺住民の生活や、来訪者の寿福寺からの散策に使われる通りです。高い標高に位置し、沿道には江迎中央公園もあり、まちを見渡す絶好の眺望ポイントとなる場所です。

景観デザインの基本方針

毎日散歩が楽しめる、まちの眺めや季節の変化を感じる“通り”

- 実践1** 高台からまちの眺めをゆっくり楽しむことができる設え。(ベンチなど休める設え、急な勾配区間に歩行者に優しい手すりを設置)
- 実践2** 沿道の緑・植栽の適切な維持保全。
- 実践3** 住民、来訪者がまちの中の楽しみを発見する案内板の設置。
- 実践4** 安心と風情を感じさせる照明の設え。
- 実践5** かつて平戸街道であった歴史を感じさせる景観舗装(歴史を感じさせる舗装材、良いエイジングの素材など)による道路空間の設え。



市道寺町線から臨むまちの眺め。手前の生垣は、視線が通る高さに剪定して抑えられています。



手入れされた緑と石垣が美しい通り。手すりは景観に配慮されておらず、休める設えなどありません。



反り立った石垣と手入れされた生垣が、重厚さと優しい自然の風合いを醸し出しています。



手づくりの遊具や、ウッドチップのスペースなどで変化が生まれます。



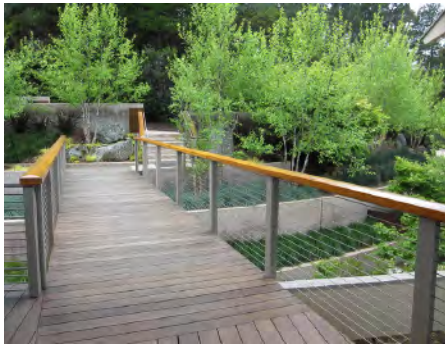
パーゴラは、公園を囲む位置や眺めのよい位置に設置すると、居心地も良くなります。



市道寺町線沿いにある、江迎中央公園もまちの貴重な眺望スポットであり、コミュニティの集まる場所です。住民らの利活用の参加によって、もっと快適に、魅力的な場所に変われる可能性があります。



寺町線はまちの眺望スポットであるにも関わらず柵の透過性は低く、人がもたれたりできるような配慮のある柵は設置されていません。



転落防止柵の参考イメージⅠ。透過性がありつつ、柵の天端は木の天板が付き、人が寄りかかることができます。



自然石アスファルト舗装は、石畳ではありませんが、石の素材感を感じやすい舗装です。(写真:日田市)

2. 試みながらつくる、まちの場所づくり

2-③ 入り江のまちの情緒を感じる江迎川

江迎川は、まちの象徴的な景観スポットであり、宿場町の名残を感じさせる石積み護岸が残っています。もっと水辺の景観を設え、利活用を図ることが、入り江のまちである江迎の良さを充実につながります。

景観デザインの基本方針

入り江で迎えるまち・江迎を象徴する、情緒を感じる“水辺景観”の創出

- 実践1** 水辺に緑（柳などの高木、下垂式の植栽）を増やしていきましょう。
- 実践2** 石積み護岸を改修する際は保全・再生しましょう。
- 実践3** 川から見る視点で、まちなみ景観づくりに配慮しましょう。
- 実践4** 水辺の環境を引き立てる、構造物・工作物のデザインに配慮しましょう。



水辺沿いの空間に、柳などの高木や下垂式の植栽などの緑を連続させ、ベンチを設置したり、水辺で人が見える活動を行なうことで、水辺のまちなみが魅力的に変わります。



柳や護岸際の緑と、石積み護岸が、宿場町の時代の風情を感じさせる現在の江迎川。



水辺に向かう道の先に、もし柳などの高木があると、水辺の雰囲気をもちの中まで引き込む装置になります。



石積み護岸は、江迎の情緒ある水辺景観をつくる大切な要素です。下垂式の緑は柔らかな水辺をつくれます。



味気ないコンクリート護岸や、景観に配慮のない白のガードレールは、改善の余地があります。



扁平アーチ型で、リズム感のある軽快なデザインの現在の橋は、水辺景観を際立たせることに成功しています。高欄も透過性を高めたり、左官仕上げなど工夫が施されています。



アーチ形状のない桁橋である現在の橋は、水辺景観に対して配慮があまり感じられません。

2. 試みながらつくる、まちの場所づくり

2-④ 自然とふれあえる里川、嘉例川

嘉例川は、岩盤が露出しそのまま護岸となっていたり、野趣のある緑が豊かな自然的な、ふるさとの川です。この環境を大切に、今ある良さを活かしていく活用や改修が望まれます。

景観デザインの基本方針

子どもが安全に利用できる、自然と調和した“水辺環境”の創出

- 実践1** 維持管理や安全に川遊びを行なう活動を充実し、自然とふれあえる里川をまもりましょう。
- 実践2** 石積み護岸を改修する際は保全・再生しましょう。
- 実践3** 良好な河川環境に配慮した構造物・工作物のデザインに配慮しましょう。



日常時や水かけ地蔵祭りなどの催事には、子ども大人も嘉例川に入り、水とふれあうことができる、まちの貴重な水辺です。



大人が先生となって、子どもに安全な川遊びのマナーを教えたり、川の生き物を学ぶなどの活動も考えられます。



川沿いを散歩しながら、ごみ拾いもする活動の様子。



川の使い方や維持管理の意識の醸成につながる手づくりのサインを設置する様子。



現在のコンクリート橋は素材・色彩が統一されているため、エイジングにより自然に馴染み、水辺景観を際立たせることに成功しています。



現在の鋼桁橋は素材・色彩に統一が見られず、エイジングしても自然に馴染んでいない印象があります。(写真中央の中洲の構造物は現在撤去され、懐かしい自然の川により近くなりました。)

3. みんなで集まって育みつなぐ、まちの景観づくり

3-① 江迎の景観に触れながら学んでみる

誇りと愛着を持つことのできる美しいまちをつくり、育て、次の世代へと伝えていくためには、子供の頃から身近なまちや「景観」に対する関心を持たせ、ひとりひとりの景観やまちづくりに対する意識を高める必要があります。学校の「総合的な学習の時間」や、地域のイベントとして景観教育に関するプログラムを実施する方法もあります。



子供たちが街を歩き、「良いな」と思った風景を写真で切り取り発表。大人も気づかなかった魅力が引き出されます。(写真：させぼ港まちづくりスタジオ)



地域の皆さんが気軽に景観改善に取り組めるガーデニングについての講習会。緑が広がることで、活気に溢れ、緑にあふれるまちづくりが展開されることが期待されます。(写真：国土交通省 HP)

3. みんなで集まって育みつなぐ、まちの景観づくり

3-② 水辺でもっと遊んでみる

江迎川や嘉例川はまだ十分に活用されていませんが、全国的に新しい水辺の活用可能性を切り開くためのプロジェクトが進んでおり、新たなムーブメントとなっています。その一つが「ミズベリング」。毎年7月7日の川の日、7時7分に全国一斉に乾杯する「水辺で乾杯」のほか（2019年は全国145箇所で開催）、河川空間を活用したイベント・社会実験などが行われています。これまで法律上難しかったことも、近年水辺の美しいまちづくりを目指して、規制緩和が進んでいます。積極的に水辺を楽しんでみませんか。



水辺で乾杯を行い、風流に参加者で風景を創出するイベントとして、全国各地の水辺で開催。(写真：ミズベリング HP)



和歌山市市堀川では、水辺の空間に人工芝を引いて、くつろげる空間を演出。(写真：ミズベリング HP)

3. みんなで集まって育みつなぐ、まちの景観づくり

3-③ 街をきれいに、美しく育てていく

地域の皆さんへのアンケートにて、雑草やゴミに対する意見もありました。「アダプト制度」は、道路を慈しみ、住んでいるところをきれいにしたいという自然な気持ちを、形あるものにしようと考え出されたものです。街路脇の花壇や公園緑地などを市民が「里親」になって手入れし、きれいにしようという活動から始まり、地域コミュニティの活性化も期待されます。



雑草の維持管理やゴミ拾いは定期的な活動が必要です。それらの活動を通して地域のコミュニティの活性化にもつながります。(写真：国土交通省 HP)



花壇やポットに植物を植え、育てていくことで街の雰囲気が明るくなります。「アダプト制度」では、活動にかかる費用の一部に対し、行政からの支援制度もあります。(写真：国土交通省 HP)

3. みんなで集まって育みつなぐ、まちの景観づくり

3-④ まちを彩る「暖簾」づくり

江迎活性化協議会は、風情が残る街並みを活かした「宿場町」らしいの風景づくりのため、町内の商店や住宅に暖簾を掲げる協力をお願いし、賑わいや一体感の演出に取り組んでいます。2020年度は住民自ら型染めの技法を学び、暖簾を作るイベントを開催。江迎活性化協議会では、技法を身に付け、将来的には地域の皆さんや来訪者の方々に暖簾づくり体験を提供できる場をつくることができたら、と考えています。お家やお店の玄関に、ぜひ暖簾を掲げてみませんか。



暖簾づくりイベントでは、生地型を貼り、除染剤を塗ることで色を落とす方法で暖簾を制作。型を使うことで比較的簡単に型染めを行うことが可能です。



暖簾は彩度の高い色ではなく、和風の落ち着いた色合いを採用しています。

3. みんなで集まって育みつなく、まちの景観づくり

3-⑤ 人と出会う、コミュニティの場

歩道と店の間の小さな空間でも、そこはまちに開かれたコミュニティスペースになります。カフェなどでホッと一息つくときに街を眺めるように、そんなお店と街の関係が心地よさを生むのではないのでしょうか。「入り江で迎えるまちの駅 おおたや」も街との関係を大事にした場所。おおたやは、「恢復（回復）TOWN」をコンセプトに、地域の皆さんが集いやすい空間を作っています。食事するだけでなく、地域の会合やちょっとした雑談、休憩に使ってみてはいかがでしょうか。



「おおたや」では、地域の皆さんや来訪者が集い、出会う宿場町ならではの空間を目指します。

3. みんなで集まって育みつなく、まちの景観づくり

3-⑥ まちを巡る来訪者のための案内・誘導サイン

様々な資源が点在し、巡ることで街を楽しむことができる江迎において、案内・誘導用のサインは必要不可欠なものです。現在地と空間全体を把握できる案内看板と、移動先の方向を確認できる誘導サインの2種類を整備することが一般的ですが、整備するにあたっては見やすい場所に設置されていること、掲載する情報量が多すぎないようにすることが必要です。また、案内看板は街の入り口といえる場所に、誘導サインは主な分岐点に置くことが望ましいです。どの場所に設置すれば観光客の皆さんが分かりやすいか、地域の皆さんで検討してみませんか。



佐世保市俵ヶ浦半島では、地域の皆さんで案内看板の設置方法を検討し、手作りで制作。

3. みんなで集まって育みつなく、まちの景観づくり

3-⑦ まちの魅力を伝える解説看板

江迎各地には歴史やそれにまつわる物語があり、名称や説明を目的とした解説用の看板が設置され、来訪者や住民が地域を理解する際に役立っています。一方で、形や説明内容が不揃いで、設置数も十分とは言えません。今後の整備にあたっては、形や説明の量など、統一的に進めていくことが望まれます。過剰な情報は理解したい意欲を削いでしまうため、文量は最小限にし、パンフレットやHPなどの活用も考えられます。

歴史だけでなく、身近な思い出も街の魅力になります。別府市の「まちの記憶に会いにいく」プロジェクトでは、地域住民に思い出を聞き取りし、地域の物語を伝える看板を設置。パンフレット片手に看板を探して巡る動きにもつながっています。



街に馴染む色彩で珪瑯で制作された、「まちの記憶に会いにいく」の看板。珪瑯でしっかり作らなくとも、手軽に段階的にやってみることも考えられます。

6. 景観づくりのサポート

江迎らしい景観を生かし、さらに地域の皆さんが心地よく暮らせる美しいまちなみを作っていくには、長い年月がかかります。ただ、このガイドラインに記載した活動も、地域の仲間と一緒に活動したり、サポートを受けることで楽しく進めていくことができます。ぜひ一緒に取り組んでみませんか。また、このガイドラインはこれで終わりではなく、

今後も地域の皆さんと議論を重ね、より良い実践方法を検討していくことも必要です。道路や公園などの公共空間の整備が計画される際にも、そのデザインや機能などについて行政と地域の皆さんとの議論し、景観の専門家からのアドバイスなどを通して、より良い姿を検討していくことができればと考えています。

江迎活性化協議会について

江迎地域で観光地域づくりを進めるため、地元住民・団体等が集まり立ち上がった「江迎活性化協議会」では、地域食材を活用した食の開発や宿場町の風情が残る街並みを活かした景観整備（暖簾づくりや格子戸の設置）、地域のコミュニティの場となるおおたやの運営など、様々な活動に取り組んでいます。江迎活性化協議会では、この「江迎まちなみ景観ガイドライン」をもとにして、地域の皆さんと具体的に取り組む景観まちづくりをサポートしていきます。



「実践のアイデア」に関連する主な補助制度等

■長崎県アドバイザー派遣制度（長崎県）

県民や市町、県の機関が美しい景観形成を目指した計画作りや施設の設計を行う場合等に、市町長の申請等に基づき、あらかじめ登録した関係分野の専門家を派遣し技術的支援を行います。令和2年4月現在で、建築や景観、都市計画などの専門家36名を登録しています。個人の申請は市町を経由して提出が必要です。

■県民参加の地域づくり事業に関する業務（長崎県）

県内の河川・海岸・道路・港湾・漁港・都市公園・砂防公園などの清掃美化活動に積極的に取り組む団体を「愛護団体」「アダプト団体」として登録し、その団体の活動に支援を行います。

■佐世保市道路アダプト（里親）プログラム（佐世保市）

市道を「子ども」に見立て、市民の方々がその「里親」となってボランティアで美化活動（花の植栽、清掃など）をして頂くことにより、道路への愛着を深め、美しい佐世保市をつくることを目的としています。佐世保市内に在住の個人、団体（企業も含む）であればどなたでも登録することができます。登録をされた方には、ご希望に応じて、軍手・ゴミ袋・花の苗等の支給をします。

■かわまちづくり支援制度（国土交通省）

地域が持つ「資源」や地域の創意に富んだ「知恵」を活かし、市町村や民間事業者、地域住民と河川管理者が連携の下、「河川空間」と「まち空間」が融合した良好な空間形成を目指す取組です。国土交通省では、かわまちづくりを促進するため、「かわまちづくり」支援制度を設け、河川管理者が支援を行っています。

企画・制作：江迎活性化協議会

アドバイザー：アルセッド建築研究所（清水 耕一郎）、

（株）Takebayashi Landscape Architects（竹林 知樹）、

（株）ルーツ・アンド・パートナーズ（佐藤 直之、宮崎 大）

協力：佐世保市観光課・まち整備課、長崎県観光振興課、（公財）佐世保観光コンベンション協会

お問い合わせ：TEL/ 0956-80-4279 Mail/ emukae.info@gmail.com（入り江で迎える まちの駅「おおたや」）